



### B 班) 笹藪化したエリアの除伐作業。 下山 千賀子(4 班)

当日、集合すると多くの方々から「久しぶり！元気だった？」と声をかけていただき、また、たき火も焚かれており、心身ともに温かい気持ちになりました。

まずはリーダーから刈り払い機の使い方を教わりました。機械の扱い方にはじまり、使用時の注意点や替刃の付け替え方まで、とても丁寧に指導していただきました。いざ使用してみると…レクチャーの時とちょっと違うぞ？メーカーによって構造が異なる

ことが分かり、新たな学びとなりました。午後からはチェーンソーを使った伐倒作業でした。チェーンソーを扱うのも久しぶりで、腰が引けてしまい、先輩方から熱心な指導を受けました。なんとか無事に玉切りまでできてほっとしました。途中で鹿を目撃したり、昼休憩にはシイタケの収穫体験もあり、とても充実した例会となりました。参加できない時もありますが、これからも無理のない範囲で継続し、地域貢献の一端を担っていきたいと思います。

### C 班) 間伐したヒノキをロープウインチでの集材体験。 佐々木 綾子(4 班)

倶楽部で購入したウインチの利用法を学び活動に役立てるべく参加を希望しました。山林で伐倒した木材は人の力で運び出すことは困難。せっかく木を切り倒してもそのまま放置されてることは少なからず見受けられます。そしてそれは豪雨や地震で土砂崩れが起きた時に脅威となって、人に襲いかかったり家屋の倒壊につながったり、川を伝い流れ込んだりします。またせっかく伐倒した木材なので、製材し板材にしたり薪にしたりと有効資源として利用することは倶楽部の方針でもあります。ウインチはエンジンの関係上、水平を保ち大木等に括り付け固定させる、エンジンのかけ方や使い方を学ぶ、ロープやワイヤー、スリングを利用して集材する等、斜面を下る場面と引き上げる場面などいくつかのパターンで行いました。1 回の講座では到底使いこなすことはできないので、繰返し利用することが必要だと思いました。



### A 班) ヒノキ林の掛かり木「コナラ」伐倒。 高田 信昭(1 班)

A 班はヒノキ林の中で掛り木となっているコナラ 2 本の伐倒です。複数の案が出ましたが、掛り木や周囲の状況から、直下に切落としたコナラの根元をチルホールで引き倒す方法が安全と判断しました。

上田さんのチェーンソー捌きでコナラを直下に切落とし根元にワイヤーロープを掛けて福本さんと私でチルホールを操作。2 本目は恵木さんがチェーンソー担当、チルホールを広瀬さん、宮浦さんの女性コンビが軽快なリズムで操作し無事 2 本とも伐倒できました。

30 号級のコナラの大木を地面に引きずるチルホール作業は、これまで経験した中でダントツの重量感があり、汗だくになって、もう限界と思ったところでバタンと倒れたのでほっとしました！！

### D 班) 簡易製材機を活用した間伐材の製材体験 上原 清美(3 班)

今回、初めてチェーンソー製材機を見て体験！森の中でブルーシートを外し機械が出てきたときに伺ったのは、まず水平にするのが大変だったということでした。山の中、土の上で水平を取るのは本当に難しかったらと思います。丸太を板状にスライスする時、先にチェーンソーにエンジンをかけてから製材機に固定します。製材機のハンドルを押すことでスライスしていきますが、少し切ったらチェーンソーが板にはまらないように楔を入れます。そしてハンドルを速すぎもせず遅すぎもせず一定の速さで押していきます。歪みのない綺麗な板ができていたので嬉しかったです。初めてで戸惑いましたが、スムーズにできるようになったら利用価値のある板がたくさんできるようになり、活動の幅も広がっていくと思います。今日の体験を是非これからは活かしていきたいと思いました。

